

しわネット



ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>



No.687

特集

新春特別座談会

紫波の「食育」を語る

—食育とは命・食・土を学び実践すること—



新春町長メッセージ
 結いの未来に向けて……2ページ

町民憲章……10ページ

1アンケート

「1」みんなはどう使ってる？
 ～紫波町の情報化の現状～……14ページ

いい本選ぶ会……16ページ

わんぱくまつり……19ページ



新春 町長メッセージ

結いの未来に向けて



新年あけましておめでとございます。
今年の干支は丙戌ひのえいぬ、十二支は「戌いぬ」です。人と犬のかかわりは古く、番犬、愛玩用として生活を共にしてきました。「戌年」生まれの方は、正直で義理人情に厚く、自尊心に富んでいると言われています。人との関係の深い干支であります。

顧みますと昨年は、町制施行五十周年の節目にあたり記念式典を挙行。合わせて「紫波の未来は農あるくらしから」と題した記念フォーラムを開催し、今後一層の繁栄を多くの町民とお祝いたしました。前後して、オーストラリア・スタンソープ市との姉妹都市盟約書を締結し、市長をはじめ市民の方々も来町され、式典に花を添えていただきました。

また、平成十七年は民意による事業も活発に行われた年でもありました。虹の保育園が復元され、その被災木材で「環境・循環PRセンター」が完成し、木造建築ならではの再利用が紫波みらい研究所の発案により実現できました。また、川を知る会の皆様の努力で「小緑舟」が復元されました。日詰商店街をはじめ、日詰駅前、上平沢商店街の活性化に向けた「中心市街地活性化事業」で「株式会社よんりん舎」が設立されました。各商店街が一層活性化されることに期待が寄せられております。このように各事業が民意でスタートし、「協働のまちづくり」の始まりとなりました。

町の財政につきましては、昨年十二月に策定した「持続的に自立できる紫波町行政計画」の推進を計画的に実行してきた結果、成果がみられ、年次計画を進めることにより、当面赤字会計は回避される見通しであります。

今年も、三位一体改革で、税源移譲は見通しが薄く、補助金の在り方も定まらず、地方交付税は確実に減ら



— 赤沢小学校二年生といっしょに —

される方向にあります。さらに厳しい状況となりますが、豊かな未来を創造できる事業を厳選して、進めてまいり所存であります。

事業推進にあたりましては、「持続的に自立できる紫波町行財政計画」に従いながら進めていくものであり、町民・企業・行政が一体となりながらの「結いの精神」による協働のまちづくり。ここに住む人たちが町を愛し、この地域を利用する人々とともに、まちづくりを一歩一歩進めていくことが二十一世紀の地方の時代に肝要であると考えております。そして、町民一人ひとりが誇りと喜びを共感できる住民自治を確立するのが当町の協働であります。

次に食育推進であります。食はすべての始まりであります。「いのち」を生み育む食がいかに大事であるか、そして人は自然の中で生かされているという感謝の心と、食を通して人と人が結びついていることを、あらためて考えて欲しいと思っています。学校給食では、子どもたちに食の大切さ、すなわち生きることの大切さを学んで欲しいと、安全・安心の農産物を供給し、循環型のまちの食育推進を図ってまいります。

施設設備では、星山小学校改築を木造、バイオマスエネルギー活用といった森林資源循環にのっとった形で進めてまいります。

環境整備では、民間資金を活用した町管理型合併浄化槽整備により公共下水道整備区域、農業集落排水区域以外の地域を今後五年で整備し、町内一〇〇パーセントの下水道整備を完了する予定です。

主要事業について申し上げますが、新生紫波町が誕生し半世紀が過ぎ、今年は新たな初年度として発展を期すためにも、職員一同とともに研鑽に励んでまいりたいとお誓い申し上げます。

(藤原 孝)



紫波の「食育」を語る

食育とは命・食・土を学び実践すること

「食」は人の基本。

生きるうえで大切な「食」は、

命をつくるだけでなく、

生き方さえつくりまします。

生産する立場で、

生活する立場で、

紫波町の未来へつながる

「食」を語りました。

◆出席者

藤原 孝・町長

阿部 初雄・農業委員／給食食材供給者

松川 久美・教育委員／家畜農家

◆司会

工藤 美保子・食育推進主幹



もち米の産地・紫波の自慢の「お餅」。晴れの日の「食」でしたが、最近は観光資源としても活躍中。



昔のおやつ、今の食

司会（工藤） 国では昨年食育基本法が施行になり、食育が国民的な運動になってきています。今日は、食育という大きなテーマですが、身近なものとしてお話しをしていただきたいと思います。はじめに私達を取り巻く食生活をちよつと振り返り、子どもだったころの



おやつと思い出話しをお願いしたいと思います。

町長 おやつで記憶にあるのは、たくさんとスルメですね。物心がついてからは、家でリンゴを栽培していたこともあって、それをポケットに入れて、一日に三個くらい食べた覚えがあります。
阿部 私の小さいころは甘いものが珍しい時代でしたから、麦芽糖、たんぐり

飴ですね、それを作ってもらったことを覚えています。冬になると干し餅（餅を乾燥させたもの）。それにゴマなどを入れて。

司会 ほんのり甘い麦芽糖は、手間暇をかけて作るものですね。

松川 私の実家は餅屋で、売り物でしたが、おやつはなまこ餅。餅に砂糖とかゴマを入れ、かまぼこの形にしたもの



藤原 孝 町長

平成10年から紫波町長。循環型のまちづくりを目指した施策を展開中。昭和13年生まれ、東長岡在住。

で、硬くなったものを切り、火にあぶって食べました。また、給食のパンを持ち帰って、蒸かしたご飯の上のせてふんわりさせて食べたり、揚げて食べたりしました。

司会 時代が移って、お子さんやお孫さんはどうでしょう。

町長 息子が小さい時は、菓子パンが出始めたころだったかな。あとは学校給食のパンを持ち帰り、よくそれを食べていたようですね。

松川 うちの子ばかり高・中・小と三人います。おばあちゃんが、よくゼリーとかいろんなものを作って食べさせてくれます。スナック菓子の袋があちこちにあつたりしますが、運動もするし、食べ盛りですからお腹が空くみたいですね。

阿部 いま、うちの孫たちを見ていると、チョコレートとかスナック菓子が結構多いような感じがしますね。保育園から帰って何か食べると、夕ごはんが進まないこともあるようです。



田植えの小昼とミズキダンゴ

司会 昔の食で、記憶にあるのは田植えの小昼（こびる）ですね。十軒くらいで「ゆいっこ」という共同作業をし、あぜ道にむしろを敷いて食べていました。

町長 昭和三十年代の「結（ゆい）」の小昼は、バランスのよい食だと言われています。フキやワラビなどの山菜とか野菜のお煮付け。まさしく「おふくろの味」ですよ。あとは赤飯のおにぎり。それぞれの家味が出ているとぶろく。それが小昼の定番でした。

阿部 私の子ども時代にも、隠すようにして、どぶろくがありました。田植えとなると学校も農繁休業といって休みになり、子どもも手伝ったものです。私らは最後の世代じゃないかな。

町長 あの当時、朝四時半ぐらいから田んぼの仕事をして、九時か九時半に小昼。昼飯は家でとり、午後また小昼が出る。

司会 晩ご飯は家で食べて、一日五食ですね。準備するのも大変だった時代ですけれど、外で食べるとおいしさひときわでしたね。

今日はお正月ということで餅料理をい

ただききましたが、伝統行事というところ、小正月のミズキダンゴが思い出されませんが。

阿部 いま、近所でやっている家はないね。以前は、座敷の下手に畳を敷かない部屋があつて、その柱に結わえつけてミズキダンゴを飾ったものだった。今はそんな部屋もないでしょう。

町長 昔は一軒一軒でやったものを、今は地区の老人クラブとかが中心になり、子どもたちを集めてやっているところもあります。

松川 公民館行事でやるので、私も子どもが小さいころは連れていきました。よるこんで参加して団子づくりをしましたね。

司会 伝統行事も地区行事として取り組まなければ消えてしまうかもしれませんね。



学校の先生は言う、紫波の給食はおいしい

司会 紫波町の場合、食育の原点の一つに学校給食を位置付けていますが、学校給食を食べられた経験はみなさんあるのでしょうか。

阿部 残念ながら、私は給食の経験がないのです。

松川 私は盛岡出身ですが、小学校が給食で、中学校は弁当持参で牛乳給食でした。

町長 町の学校給食は、昭和二十九年

昨年からの教育委員を務める。しわ牛研究会でもちもち牛の生産に取り組んでいる家畜農家に嫁ぐ。PTA活動にも積極的で、数々の役職を歴任。片寄在住。

松川 久美さん

昨年からの教育委員を務める。しわ牛研究会でもちもち牛の生産に取り組んでいる家畜農家に嫁ぐ。PTA活動にも積極的で、数々の役職を歴任。片寄在住。





に佐比内小学校が最初で、次が水分小学校です。当時は脱脂粉乳でした。
司会 脱脂粉乳はなつかしいですね。コッペパンも良く食べました。
松川 私も脱脂粉乳でした。よくパンを残していましたね。
司会 町では給食センターで学校給食を作っていますが、子どもさんやお孫さんの給食の献立などにどんな感想をお持ちですか。
松川 メニューが豊富ですよ。中華、洋食、アジアの食まであって、家でできないものまでいろいろあります。参観日にお母さんたちも食べましたけど、親世代とは違ってご飯ですから、みんな

な感激していました。
司会 パンとご飯と、子どもたちはどちらを喜びますか。

町長 先日、日詰小学校で聞いてみたら、どちらかといえばご飯をあげる子が多かった。

松川 パンは週一回だから、楽しみではあるみたい。おかずを考えても、ご飯のほうが変わりますよね。

町長 かなり前ですが、町で米がとれるのに、なぜパン給食なのかという質問が出たことがあります。米を食べさせると頭が悪くなる、パンは頭がよくなるといった、笑えない話も聞いたことがあります。もちろんそんなことはないわけで、町でもたくさん収穫される米をぜひ給食にと米飯給食に変ったわけです。

司会 米は飽きないし、日本人の体質に合っているように思いますね。

松川 今、希望すると給食を食べることができそうですね。

町長 どうぞ体験してください。学校の先生方は県内を異動していますからよく分かっていますが、紫波町の給食はとてもおいしいと言っています。一食二百四十五円ですけど。

阿部 私は、年一回、センターで給食体験をする機会があります。結構なメニューです。最初、量が足りるかと思いましたが、食べてみると十分すぎるくらいで、これなら残す子どももいるだろうな。





町長 いま、平均で毎日二〇〇キロずつ残菜が出ているようです。年間にすると、約四〇トンになります。町ではこれを「えこ3センター」に運んで堆肥化し、農地に帰すようにしています。



みそ汁が飲めない子がいる？

司会 町では、一昨年からは、安心の食推進ということで学校給食に町内産の食材を供給しようと、積極的に取り組んでいます。受け入れる子どもたちの現状をどのように見ますか。

町長 まず、子どもたちにきちんとした食事をしてもらう、これが食育につながるということ。モノがあふれている今、一人ひとりが、本当に良い食生活をしているのでしょうか。アンケートによると、町で朝食をとらない子どもは、小学校で八％、中学校で十一％もいます。小学校で県平均が九％、全国平均よりは下回っています。がシヨックですね。その訳は、「食欲がない」のほかに「親が起きない」というのもあるのです。

松川 紫波町は、まだ何世代かで暮らしている家が多いのにそんな現状もあるのです。子どもも気力が出てきませんよね。

町長 午前中、体育で跳び箱があつたりしたら、空腹で飛べるのでしょうか。我々だって空腹だと立つかから、子

どもはキレやすくなるでしょう。

松川 一人で食べる「孤食」も問題ですね。一時期、ハサミで切るからと、まな板のない家庭の話も聞かれましたけど。

町長 まさかという感じですが、学校給食で分かったことは、味噌汁を飲んだことがない子もいることです。家でどんな食事をしているのだと思うわけですよ。

司会 味噌汁を飲んだことがないというのは、本当にびっくりです。そういう実態から、食育が叫ばれるに至ったのですね。

町長 そういうことをなくするための食育でもあるんですね。そして安全なものを選ぶ能力を養って欲しい。学校給食にO-157、BSE問題が出てきて、食品の安全がクローズアップされました。そこで育ちのわかる町内産のものを使おうということになった。阿部さんも参加している食材供給組合の役割も大きいわけです。



自分で育てて味わう体験は一番の食育

司会 給食の食べ残しなどを、えこ3センターで畜ふんと一緒に堆肥化し、それを農地に還元する話が出ましたけれども、阿部さんの田んぼや畑にその堆肥が戻っていくのですね。このような「循環型農業」の取り組みが大事ですね。

座談会会場となった紫波フルーツパークは、「食」をつくって楽しむ新たな観光スポットです。





阿部 昨年は給食へのキャベツの供給が八〇〇キロほどでした。生産者からすぐに給食センターに届けますから、新鮮なものを届けられるし、子どもたちにも生産者の顔が見えるのがいいのではないかなと。安全・安心の面でいうと、農薬などもかなり制限しています。

昨年は、農作業体験ということでも、二中の一年生、六十五人かな、枝豆を定植してもらって、秋には収穫もしました。定植の時は七月十五日、非常に暑い日で、大変だったと思います。今の子どもは、農家でも農作業の手伝いなどをしなくなってきましたから、自分で育てて味わう体験は、子どもたちが一番感じる食育の一つじゃないかな。

司会 「もちもち牛」を育てている松川さん、子どもさんが牛の世話を手伝うことはありますか。

松川 うちの子がやったのは小さいときだけです。体験学習で中学生が牛の世話をしたことがあります。今は生き物を飼っている家も少ないから楽しくやっていたみたいです。

阿部 こういった体験は一人、二人ではなく、みんなやるから楽しいかもし

れない。

松川 三中の生徒はラ・フランス畑で受粉作業の予定だったのですが、今年雨で中止になり、「ナシをもらえないのかなあ」と言っていました。おいしい食べ物はごほうびですね。

町長 農業体験のなかで、作物を育てる大切さ、家畜を飼う楽しさ大変さ、そういうことを学び、関心を持ってもらって、日本の食料自給率を向上させなければ。

松川 「いただきます」というのは、自ら世話をしたり、人が世話をしてくれたものをいただいたりという気持ちを表す言葉ですよ。



味がいいキャベツほど虫も好む

司会 生産者ではなく、食料品を買う立場になったとき気をつけていることはありませんか。

松川 値段に走るのは給料日の前(笑)。輸入物は日数がかかるのに傷みがないのが不思議で、何か使っているのでしょうか。おばあちゃんは、家で作っていないものは産直で買うことが多く、珍しいものを見つけたのが楽しいようです。

町長 安全・安心の農産物とは何でしょう。例えば虫食いのキャベツは誰も買わないと言いますが、虫はおいしいからつくのであって、そういう物が流通されないことが不思議なんですよ。

阿部 キャベツは二、三枚目の外葉に虫がつき、中は大丈夫です。給食に出すのは残葉が出ないように外葉を取っていますが、市場出荷は傷がつかないように外葉でくるむ。だから虫食いは出せないのです。

司会 安全という点で、矛盾を感じる場所もあるわけで、やはり、消費者が生産の実態を知ることが大切ですね。

町長 紫波の食ナビ(インターネット)でも、正しい情報を発信して、きちんと伝えなければならぬと思っています。



「家のご飯はやっぱりおいしい」と言わせたい

司会 食育は行政の取り組みとして始まったばかりですが、皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか。特に母親の立場からいかがですか。

松川 出されたものをただ食べるのではなくて、「これを作るときはこうだったか」、「こういうときにできたからこうなのだ」とか、生産過程や状況が思い浮かべられればいいなと。

司会 生産が身近にあることは、子どもにとって食育そのものですね。

松川 自家でも生産しているからかもしれませんが、真剣に食べなさいという気持ちです。どこに行っても、何でもちゃんと食べてほしいと思ひ、小さいころ、ぐずぐず言うのでイスから引きずり下

第2回 食育講演会のお知らせ

紫波の本物食材でヘルシーランチ

町の食材を使った料理を実際に作って、食べて、食育についての話を聞く、楽しい参加型の講演会です。先着40人の募集です。お早めにお申し込みください。

日時 1月28日(土) 午前10時~午後2時
(調理・ランチタイム・講演会)

会場 ラ・フランス温泉館 交流プラザ

講師 食生活コンサルタント 下田田美子さん

会費 1,000円(材料費ほか)

申込み・問合せ 農林課 農林振興室

☎672-2111 内線3334



工藤 美保子さん

昨年新設の食育推進主幹。各分野にわたる食に関する施策を効率的に推進する役割を担う。西長岡在住。



阿部 初雄さん

農業委員。農事組合法人ゆいっこの里犬草として学校給食に野菜を供給している。また、えこ3堆肥を使い、地域で給食用の米を生産している。昭和19年生まれ、犬伏森在住。

ろすくらい怒ったこともあります。その
かいがあったのか、今は宿泊の行事にも
安心して出してやれます。息子が大人
になってたまに帰ったときに、「家のご
飯はやっぱりおいしい」と言わせてみた
い。そしたら勝ちかなと。
町長 どの家庭も松川家のようであ
れば、あえて食育と言わなくてもいい
のですが、朝食抜きはもちろんのこと、
食べたと言っても、せんべい一枚とかチョコ
レート二枚、牛乳だけでも食べたこと
になるといっては話しにならないで
すから。
松川 やはり教える時期があるのでは
ないでしょうか。保育所のはらはんが
ン怒りましたけど、楽しくない食事だっ
たのではないかなと反省しています。
阿部 農家の一人として、これからも
安全・安心の農産物を子どもたちに提
供していきたいですね。

町長 食べることをさえしつかりしていれ
ば、知育、徳育、体育も伸びますよ。
いま地産地消と言われますが、土と
もに生活する「身土不二」という言葉。
人間が生きる上で一番大事なのは食べ
ること。それを作るのは土である。そ
こを踏まえてきちんと生活をするこ
とを教え、身に付けさせなければいけ
ない。命と生は食べ物に結びつき、食べ物
は土に結びつく。そのことを、子ども
や若いお母さん、お父さん中心に広め、
定着させたいですね。
司会 子どもたちが食をきちんと受け
とめる。やがては、自分の子どもにそ
れを伝える。そういう流れをつくるこ
とを、今、大切にしなければならぬ。
だから食育が大事なのです。時間は
かかりますが町長のお考えもあつて、
食育に真剣に取り組んでいきますので、
よろしくお願いします。

第1回 食育講演会

地域で取り組む食育・地産地消、
まずはみんなの出会いから



町ではより多くの皆さんに、食
育の大切さを知ってもらったため、
シリーズで食育講演会を開催し
ていきます。その1回目として
劇団ZENITYOYOCLUB
B代表志村尚一さん（花巻市）の
講演が、12月10日、ラ・フランス
温泉館交流プラザで行われまし
た。人との出会いやふれあいの中
から食の大事さを学ぶことがた
くさんあること、食べ物や作り手
への感謝の気持ちを忘れないこ
となど、体験談を交えた分かり
やすい内容でした。

参加者は、子どもや孫に安全
な良いものを食べさせたいとい
う思いの女性が八割ほどでした。
講演の後、町産食材にこだわった
「おにぎり」と「豚汁」が振る舞
われましたが「給食にこのおいし
いお米が使われていると思うと
うれしい」「豚汁の具は、野菜の
うま味が出ていて、家庭料理の
参考になった」などの感想が聞か
れ好評でした。

紫波町民憲章

The Charter of Shiwa-town folks.

わたくしたちの紫波町は、
北上川のゆたかな流れに恵まれた自然の風土と、
先人のたゆまぬ努力によって発展してきました。

わたくしたちは、
ここに自らの責任と誇りをもち、
すすんで希望にみちた郷土を築くため、
全町民の願いをこめてこの憲章を定めます。

- 1 健康につとめ、
明るいまちをつくりましょう。
- 1 自然を愛し、
美しいまちをつくりましょう。
- 1 きまりを守り、
安全なまちをつくりましょう。
- 1 教養を高め、
心ゆたかなまちをつくりましょう。
- 1 あたたかく交わり、
住みよいまちをつくりましょう。

しわネット10・11ページの町民憲章を壁などに張ってご活用ください。

協働のまちづくりの原点

紫波町民憲章

町民憲章は、町の理想像、未来像（町づくりの指標）として町制施行20周年を機に制定されました。

昭和40年代当時、社会経済、産業構造の変化による都市化現象の進行に伴う地域社会の連帯意識の稀薄化や公德心、愛郷心の欠如などの社会問題がありました。そこで町民と行政が一丸となった町づくりが志向されるようになったのです。社会体育の振興をはじめとする健康づくり運動や、生活環境を整備するための美化運動など多様な町民運動の展開、さらには住民自治の浸透に伴う憲章制定の要望が高まってきました。そこで町民憲章策定委員（41名）を町長が委嘱し、調査、試案、検討を重ねた結果、昭和50年2月議会可決、4月1日施行、町制施行20周年記念式典において公表されました。

今年は町誕生から半世紀、51年目の年です。町民と行政が一体となった、町が進めている協働のまちづくりの思いと合い通じる町民憲章を今一度見直してみましょう。

水の☆の水水しいお話 <5>

「下水道施策の仕組み」



(参考図出展：日本下水道協会ホームページ)

都市化や食生活の洋風化が進み、河川の浄化作用だけでは、生活排水をきれいにすることができなくなってきました。そのため、污水处理施設の整備が進められています。

污水处理施設は国の制度により、いろいろあります。紫波町では、次の污水处理施設により下水道の整備を進めています。

- ① 公共下水道（国土交通省）
- ② 農業集落排水（農林水産省）
- ③ 浄化槽（環境省）

これらの事業の結果、平成17年3月末での、普及人口は24,646人（71.3%）となっています。実際に下水道を利用している人口（衛生処理人口）は21,892人（63.3%）となっています。

平成18年度からは、管理型浄化槽整備事業が始まります。これは、集合処理区域（①、②以外の区域）以外の全域を対象として、浄化槽を町が設置し、町が維持管理します。受益者には、分担金と使用料を支払っていただく事業です。町は、これをPFI事業として進めます。（下水道課）

民間のノウハウで浄化槽整備が実現

町と特別目的会社、紫波PFI浄化槽整備株式会社（富岡靖博代表取締役）との間で交わした紫波町管理型浄化槽整備PFI事業契約が、12月14日に町議会で承認されました。これは、集合処理区域以外の町内全域を対象とする浄化槽の整備・維持管理を、民間の資金と経営ノウハウを活用するPFIの手法で行うことで、河川の水質改善や住民の要望を早期に実現しようとするものです。町のPFI事業導入は県内初、浄化槽事業としては国内4番目となります。

該当地区の皆さんを対象に説明会を行っています。詳しくは下水道課にお問い合わせください。

問合せ 下水道課 672-2111 内線 5322

※PFI (Private Finance Initiative) とは

公共施設などの建設、維持管理、運営を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う新しい手法です。民間資金活用型社会資本整備。

町職員の給与をお知らせします

問合せ 総務課 職員管財室 672-2111 内線2312

町職員の給与は、国、県に準拠して町の条例、規則で定められています。
町民の皆さんにそのあらましをご紹介します。

1. 人件費の状況

町の平成16年度一般会計歳出決算額による町長など常勤の特別職と一般職の職員に支払われた人件費です。この中には、水道事業などの公営企業の職員、臨時職員および各種委員などに支払われた人件費は含んでいません。

(単位：千円)

住民基本台帳人口 (平成16年度末) (平成17年現在 34,564人)	歳出額A	人件費B	人件費率 (B/A)	(参考) H15人件費
17.3.31現在 34,564人	10,966,262	1,941,437	17.7%	1,967,437

2. 一般職の給与費の状況

平成17年度一般会計当初予算からみた一般職の給与費です。町長などの特別職、公営企業および臨時職員などに支払われる給与、共済組合の負担金、退職手当などは含まれません。

(単位：千円)

職員数 A	給与費			1人当り給与費(B/A)	
	給料	職員手当	計B	17年度	16年度 (参考)
249人	964,714	565,632	1,530,346	6,146	6,164

3. 平均給料と平均年齢の状況

(平成17年4月1日現在・一般会計)

一般行政職と用務員などの技能労務職の平均給料月額と平均年齢です。

職 種	紫波町		国	
	平均給料月額	平均年齢	平均給料月額	平均年齢
一般行政職	324,133円	41.5歳	329,728円	40.3歳
技能労務職	298,830円	41.5歳	285,008円	48.1歳

4. 一般職の初任給の状況 (平成17年4月1日現在)

職員の初任給を学歴別に表しています。

区 分	初 任 給
一般行政職	大学卒 170,700円
	高校卒 138,800円
技能労務職	高校卒 134,400円

5. 一般職の職員手当の状況

期末・勤勉手当の状況 (平成17年度)

民間企業の賞与に当たるもので、支給割合は国と同じです。

区 分	6月期	12月期	計
期 末	1.40月分	1.60月分	3.00月分
勤 勉	0.70月分	0.75月分	1.45月分

平成17年度給与改定に伴う給料などの減額相当分を12月期で調整。

時間外勤務手当 (一般会計)

(単位：千円)

時 間 外 勤 務 手 当	16年度	支 給 総 額		41,566
		職員1人当たり支給年額	191	
15年度	支 給 総 額	127,978		
	職員1人当たり支給年額	574		

特殊勤務手当 (平成16年度・一般会計)

著しく困難な仕事に携わる職員に支給するものです。

職員全体に占める手当支給職員の割合	8.8%
支給対象職員の平均支給年額	25,782円
手 当 の 種 類	8種類
主な手当の名称	税務手当、道路上作業手当 など

扶養・住居・通勤手当の状況 (平成17年4月1日現在)

区分	内 容	月 額
扶養 手当	配偶者	13,500円
	配偶者以外の扶養親族2人まで	6,000円
	配偶者がいない場合の1人目	11,000円
	配偶者が扶養親族でない場合の1人目	6,500円
	その他の扶養者	5,000円
*16歳~22歳の子は5,000円加算		
住居 手当	月額12,000円を超える家賃支払者または自己が所有する住宅(取得後5年迄)に住む世帯主の職員に支給	
通勤 手当	45,000円を限度とし距離に応じて支給	

6. 特別職の報酬などの状況 (平成17年度)

区 分	報酬など月額	期末手当	
町 長	780,000円	6月期	1.60月分
助 役	610,000円		
収入役	575,000円		
議 長	338,000円	12月期	1.75月分
副 議 長	275,000円		
議 員	248,000円		
		計	3.35月分

7. 一般職の職員数の状況 (各年4月1日現在)

(単位：人)

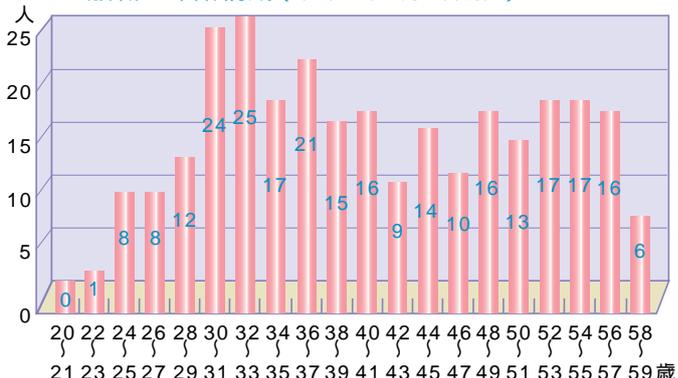
区 分	職員数		対前年 増減数	17年増減理由
	16年	17年		
議 会	3	3		
総 務 企 画	48	47	1	自立計画策定業務終了減
税 務	19	19		
民 生	72	69	3	児童福祉施設の民営化減
衛 生	16	17	1	健康増進施策強化増
労 働				
農 林 水 産	25	25		
商 工	5	5		
土 木	21	19	2	事業減による業務減
教 育	41	40	1	給食配送業務一部委託減
水 道	10	9	1	施設管理業務一部委託減
下 水 道	11	12	1	新規事業策定による増
合 計	271	265	6	

公営企業などの職員を含み、特別職および臨時職員などは含みません。

8. 一般職の職員数推移 (各年4月1日)

区 分	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
職員数	293人	285人	282人	273人	272人	271人	265人

9. 一般職の年齢構成 (平成17年4月1日現在)



「IT」 みんなは どう使ってる？

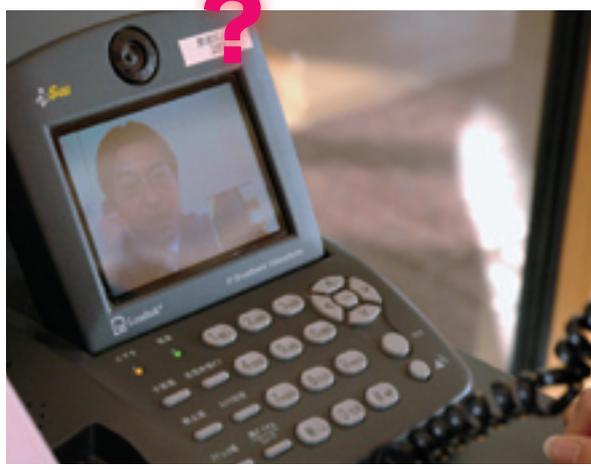
紫波町のIT化の現状

町では、2001年に策定した紫波町地域情報化基本計画に沿ってホームページの整備、公共施設のネットワーク化、公共端末の設置、ITサポートセンターの運営などのIT化を進めています。日進月歩のこの分野において基本戦略の策定から4年が経過した今、皆さんのご家庭にはどのような変化があるのかを検証するためにアンケートを実施いたしました。そのアンケート結果の一部をご紹介します。

○調査方法

調査対象者は平成17年8月1日現在、20歳から80歳の中から、10歳ごとの人口比率に配慮した人数を無作為に500件抽出しました。9月2日を回答期限とし、8月17日にアンケート用紙を発送、9月9日到着分までの集計です。

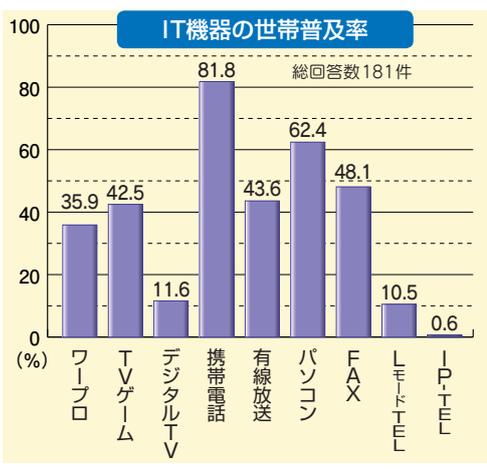
発送数	有効発送数	有効回答数	有効回収率
500	496	181	36.5%



○アンケート結果

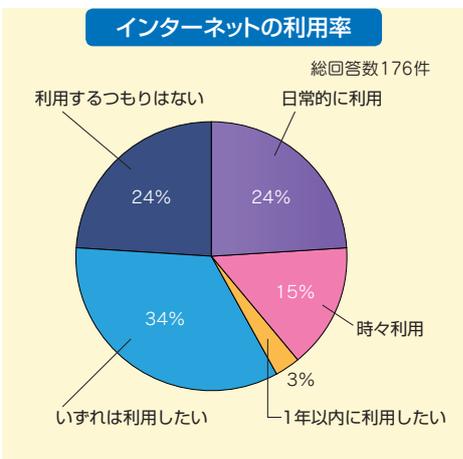
■ご家庭にある情報機器は？

今回の調査では、携帯電話を8割以上の人が所有しているという結果でした。2001年の調査時に所有世帯率が47%だったパソコンは62.4%に増加しました。紫波町においてもパソコンの普及が進んでいることがわかります。

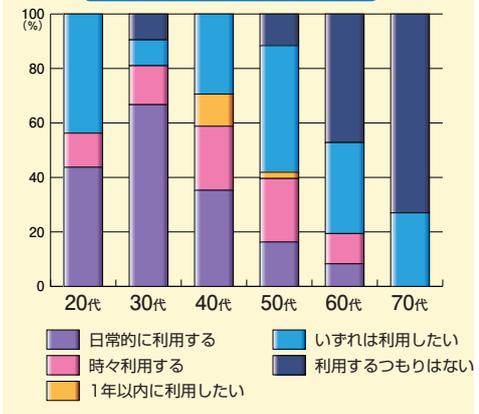


■インターネットの利用は？

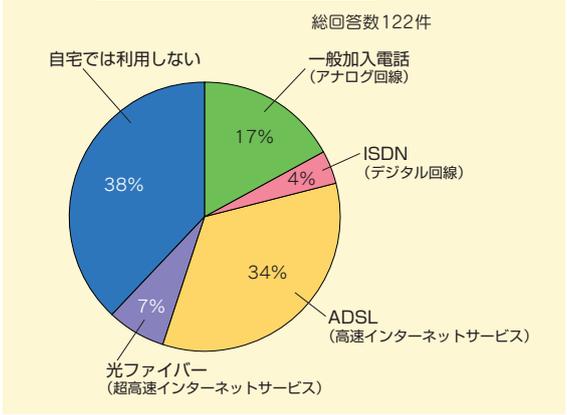
2001年の調査時は「日常的に利用している」が10%でしたが、今回は24%に増加しています。「時々利用」を含めると前回27%でしたが39%まで増加しています。また、利用者の男女比は前回男性が多かったのに対し、ほぼ同数になっており、女性の利用者が増加していました。「日常の利用」は30歳代がもっとも多く、高齢になるほど利用率・関心が低くなっています。



年代別インターネット利用率



インターネットの接続環境



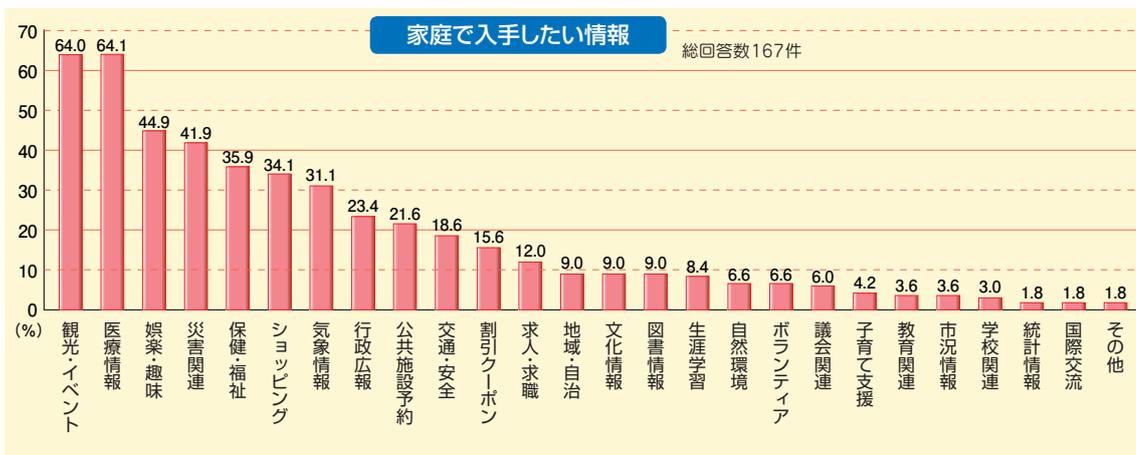
■インターネットの接続環境は？

一番多いのはADSL。ついで一般加入電話によるアナログ回線となっています。

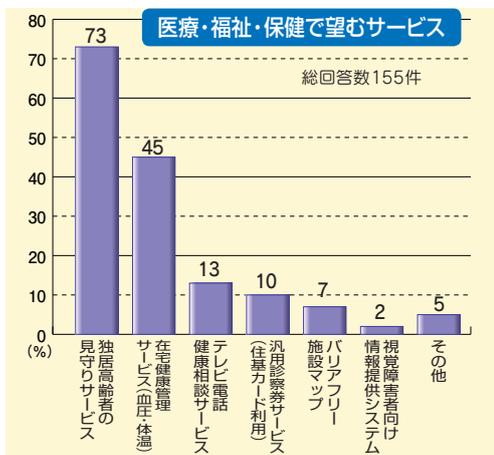
紫波町から生まれたプロバイダー会社「フルーツネット」をご紹介します。

(株)フルーツネットはJAいわて中央の有線放送電話回線を利用して、高速インターネットサービス(ADSL)を展開しています。有線放送加入者は、町内のほぼ全域で高速インターネット環境が実現できます。

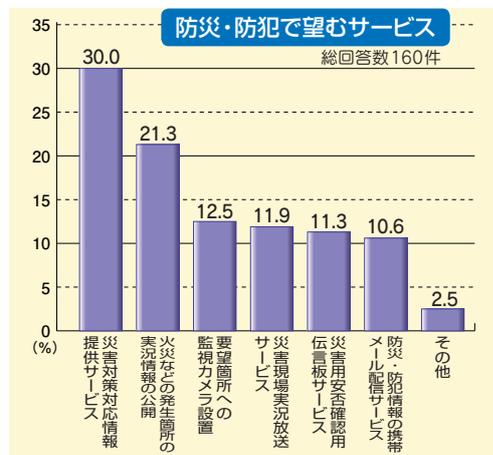
【お問い合わせ・お申し込みは】
 (株)フルーツネット ☎028-3305 紫波町日詰字下丸森71番地 (JAいわて中央農業管理センター2階)
 ☎671-2526 ☎671-2527
 ホームページ <http://www.fbb.ne.jp/>
 Eメール info@fbb.ne.jp



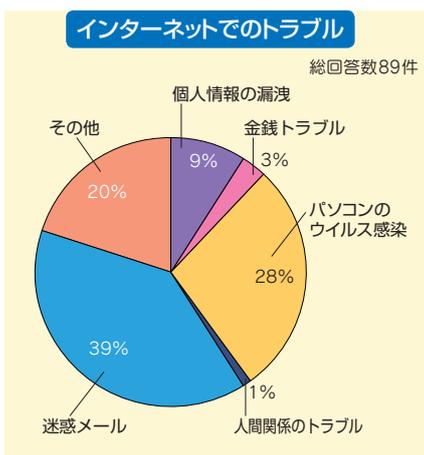
■ご家庭で入手したい情報は？
 2001年の調査時と比較し災害関連情報が10ポイント増加しました。ここ数年、国内外で災害による甚大な被害が起きています。迅速な情報提供が求められていることがわかります。



■医療・福祉・保健で望むサービスは？
 独居高齢者見守り、在宅健康管理サービスが大半を占めました。家に居ながらの双方サービスが求められています。



■防災・防犯で望むサービスは？
 前問の回答と同様に、災害に対してどのような処置・対応がされているかを速やかに提供することが求められています。



別の設問で伺った「インターネットを利用する上で最も心配なこと」は「個人情報の漏洩」(52%)でしたが、実際のトラブルとしては迷惑メール、ウイルス感染が主なものでした。インターネットでは居住地域に関わらずセキュリティを意識する必要があります。

より使いやすいサービスが求められる

今回のアンケートにより皆さんの生活のなかにインターネットが普及していることがわかりました。しかし高齢者の皆さんの利用や関心が低いことから、今後高齢者のみなさんも利用しやすい身近でやさしいサービスが必要と思われます。

これらの傾向をふまえ、次期地域情報化基本計画 (ICT基本戦略) の策定を進めていきます。

今回のアンケート結果の詳細はホームページからもご覧いただけます。

<http://office.town.shiwa.iwate.jp>

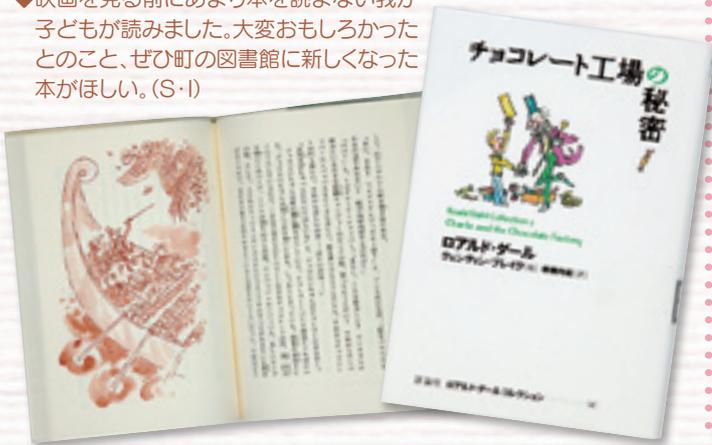
(紫波町のICTとは Information=情報 Community=地域社会 Technology=技術 の頭文字をあわせたものです。)

チョコレート工場の秘密

ロアルド・ダール／評論社

チャーリーが住んでいるチョコレート工場には秘密がある。だれもそこで働く人を見たことがないナゾの工場。そこへ5人の子どもたちが招待されるというので大騒動!さあ、何が起ころのか?!

◆映画を見る前にあまり本を読まない我が子どもが読みました。大変おもしろかったとのこと、ぜひ町の図書館に新しくなった本がほしい。(S・I)



こころを育てる、知性をはぐくむ読書のひとときを 新しい町の本、 入りました。

● いい本選ぶ会

平成17年11月3日、中央公民館で「いい本選ぶ会」が開催されました。みなさんに選ばれたすてきな本をご紹介します。中央公民館図書室で、本たちが借りていってくれるみなさんをお待ちしています。



教科書から消えた唱歌、童謡

横田 憲一郎／産経新聞出版(扶桑社)

かつてはよく子どもたちが口ずさんでいたあの歌、この歌が教科書に載っていない。日本の歌心を守るため、親から子、孫へと歌い継いでいきたい本です。

◆昔を思い出して。(O・E)
◆昔教えられた歌をもう一度歌いその内容を改めて知りたかったから。(Y・A)



声にだすことばえほん がまの油

齋藤孝／ほるぷ出版

物売り口上の決定版「がまの油」が、声に出して、読んで楽しく、絵を見ておかし絵本になりました。



◆テンポよく、大きな声で読むことができ、日本語のおもしろさを実感できる絵本。(Y・A)

絵で見る「もの」の考え方

町田健／主婦の友社

なんでも、かんでも「一個、二個」「一つ、二つ」と数えていますか?知っているようで知らないよーく考えるとへんな「もの」の数え方完全絵解きつきの503点。

◆物や生き物は何と云うのか書いてあるので良いと思った。(A・N)



あきはいろいろ

五味太郎／小学館

はっぱがあそびにきましたよ。いろがやってきましたよ。あきをあそぼう。

◆秋を楽しむことができそう。(A)
◆五味さんのファンなので!(名前なし)



齋藤孝のガツンと一発シリーズ

齋藤孝 / PHP研究所

前代未聞!小学生のための生き方塾。太ゴシックで強調した文とイラストを見るだけでもOK!

◆どのテーマでもよいと思うが、子ども向けだけではもったいないような内容。他の本にはないテーマの設定と追求する商魂みたいなのを感じた。さすが「サイトウワールド」はすごい。(M・F)



なんにもしないいちにち

仁科幸子 / フレーベル館

ハリネズミのおとなりさんはちいさなヤマメ。ふたりのまいにちはちいさなはつけんていっばい。

◆なごみます。(名前なし)



50円おかず150円献立

主婦の友社

うまい!やすい!でパパッと作れるアイデアおかずで大満足!家族が喜ぶおかずのレパートリーがグリーンと広がる、台所を預かる主婦にうれしい一冊です。

◆独身者で現在「男の料理」研究中。(O・M)



人を10分ひきつける話す力

齋藤孝 / 大和書房

面接・プレゼンで光る!スピーチに活用できる!「話す力」が身につく!「人をひきつける」ためのテクニック&トレーニング。

◆特に若者にすすめる。会話がみだれている最近、言葉を見直してほしい。(T・M)

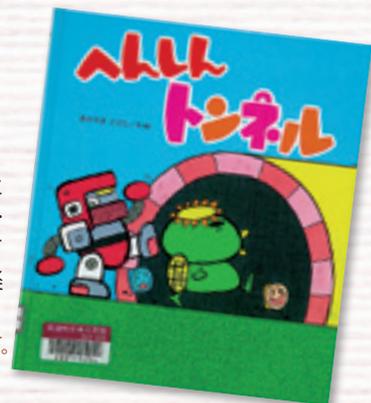


へんしんトンネル

あきやまただし / 金の星社

ようこそへんしんトンネルへ!ページをめくってはびっくり!かつばが「かつばかつば…」とつばやきながらくぐると、「…ばつかばつか」と馬になって出てきました。絶対はまる楽しい絵本!

◆子どもが選んだBOOKなので。(K・K)



ファンタジーエン 秘密の図書館

ラルフ・イーザウ / ソフトバンククリエイティブ
ミハエル・エンデの世界的ベストセラー「はてしない物語」から20余年。ふたたびファンタジーエンが動き出す。

◆おもしろそうですね。(R・S)



敬語力をつけるコツ

永崎一則 / PHP研究所
益読できる人間関係を築くために
永崎一則

敬語力をつけるコツ

永崎一則 / PHP研究所

「とんでもございません」はとんでもない!「バカ」「非常識」と思われたいための使い方を各項目4行でやさしく解説。就職学生、ビジネスマン必読。

◆ときどき気になる言葉があるのでぜひ自分も読みたい。(M・K)

ひかりのメリーゴーラウンド

田口ランディ / 理論社

形あるゆえに触れることのできるこの世界の優しさと、そこから旅立っていく魂の清冽な軌跡を描いた著者渾身の純愛小説。

◆田口ランディにしては美しい本(?)じっくり読んでみたい気にさせますので選びました。さし絵も丁寧に仕上がっています。(M・F)

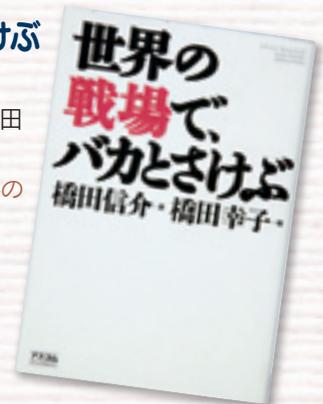


世界の戦場で、バカとさげふ

橋田信介 / アスコム

この本を出すことは、私なりの橋田への供養なのです(橋田幸子)

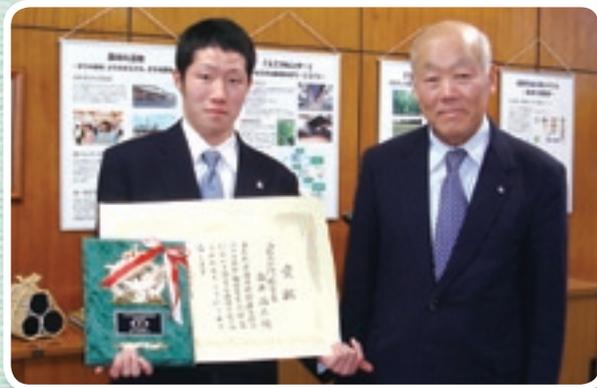
◆戦争をなくしたいから。現状を世界の人により多く知ってほしい。(Y・S)



農業者の代表 として、相談役 として尽力

11/11

前農業委員の高橋公一さん(片寄)が永年勤続農業委員として、第五十回岩手県農業委員大会において表彰を受けました。高橋さんは議会推選で平成二年から五期十五年の任期を満了し、農委だよりの編集などに携わりながら、農家の相談役として担い手の育成や、農地行政の適正化に努めてこられました。



「毎日新聞社が主催する農業への思いや夢をつづる『毎日農業記録賞高校生部門』で、花巻農業高校3年生山満正さん(片寄)の作品が優秀賞を受賞しました。作品タイトルは『日本一の畜産経営者を目指して』。畜産農家で育った経験や、もち米を食へさせて育てた『しわもちもち牛』への思いなどがつづられてあります。この受賞で、東京農業大学の特別推薦入学が認められ、大学で農業経営を学ぶべく、この夢をふくらませています。

2005 まちの わだい



12/6

農業への夢、一歩前進

毎日新聞社が主催する農業への思いや夢をつづる「毎日農業記録賞高校生部門」で、花巻農業高校3年生山満正さん(片寄)の作品が優秀賞を受賞しました。作品タイトルは「日本一の畜産経営者を目指して」。畜産農家で育った経験や、もち米を食へさせて育てた「しわもちもち牛」への思いなどがつづられてあります。この受賞で、東京農業大学の特別推薦入学が認められ、大学で農業経営を学ぶべく、この夢をふくらませています。

美しい町を守るため先頭に 立ってきた3人に感謝

11/17



志和第2衛生区長の大沼啓之助さん(志和)が全国地区衛生組織連合会会長表彰を受けました。昭和五十四年から衛生区長として、平成八年からは町衛生組合連合会会長として、町全体の環境美化活動の普及に力を入れるとともに、ごみ問題を社会問題としてとらえ、現在、ごみの減量化と資源リサイクルを推進しています。

また、公衆衛生功労者岩手県知事表彰を高橋肇さん(古館)が受賞しました。高橋さんは平成四年から町衛生組合連合会の理事として、また、平成十一年からはごみポイ捨て監視員として、衛生思想の普及やごみ減量化、再資源化を推進するとともに、廃棄物の不適正処理や不法投棄の監視活動も継続して行っています。

古館地区衛生組合長の加藤義男さん(古館)は岩手県公衆衛生組合連合会会長表彰を受けました。地区のごみ分別指導や集積所の衛生指導など、環境衛生思想の普及と清潔で美しい地域づくりに貢献しています。また、町衛生組合連合会理事として、ごみ減量化の推進に特に力を入れています。

デジカメ探検隊



表紙左下の写真は、小学生が環境探検隊で撮影したものです。

●今月のタイトル
「自然が見せてくれたもの」

卵料理で先人を学ぶ わんぱくまつり

11/28
29



日話公民館と日話小学校3年生は、名誉町民橋本善太さんにあやかっ、卵を使った料理を作る「わんぱくまつり」を毎年開催しています。食事づくりにかかわることで「食」への興味・関心を深め、家族のコミュニケーションの機会を増やすことを目的としています。

はじめに小椋孝郷館長から橋本善太さんについてお話を聞き、関泰子栄養士から卵の栄養や扱い方を習い、お手伝いのお母さんたちと一緒に作り始めました。ゆで卵に食紅で色をつけて自動車やうさぎの形に切っていくときは最も真剣になっていました。そのほかスクランブルエッグ、カナッペなどがお皿いっぱい盛られ、給食と一緒にいただきました。



プロフィール

橋本善太 (1892～1956)

明治25年、日話生まれ。蚕(かいこ)の品種改良に貢献。養鶏家として1年間に卵を366個産ませ、世界記録を樹立。さまざまなニワトリの研究を行い、産卵率が高く肉質の良い「ゼンタックス」の生みの親。

とことん知りたい

南部 杜氏



紫波町は 南部杜氏発祥の地

越後、丹波と並び日本三大杜氏として名高い南部杜氏。この約二千人の技能者たちは冷たい北風が吹き始めるころ、その腕前をふるうため全国の造り酒屋へ赴きます。この冬は町から全国98事業所へ230人が酒造工として出かけています。

江戸時代、近江商人村井権兵衛が、大阪から杜氏を招き、志和で酒造りを始めたことから南部杜氏発祥の地と言われています。また南部の奉公人として京都へ出向いた者が杜氏の見習としてその技術を身につけ、やがて地元杜氏として外来杜氏に代わっていったとも言われています。

盛岡と並ぶ 県内最多の造り酒屋

清らかな水と良質な醸造米、そして岩手の寒さは酒造りに適した風土で、県内には造り酒屋が26社、そのうち4つが町にあります。町の造り酒屋は地元杜氏の技術により伝統を受け継ぎ、奥が深い酒造りにさらに挑戦し、私たちの舌を楽しませてくれます。

酒蔵で新酒を味わう

紫波町のあったかいバスツアー

森の中にたたずむフルーツパーク体験工房で、エッセイスト澤口たまみさんのあったかいお話に耳を傾けティータイムのひとつときを。その後はピザ作りに挑戦。午後は酒蔵を見学し、雪深き美人の湯「ラ・フランス温泉」で町初めての冬まつりと温泉を楽しみましょう。心と体の温まるバスツアーです。観光ボランティアガイド「しゃ・べーる」が同乗し、町の紹介と昔話を披露します。

日時 2月12日(日) 紫波中央駅午前9時集合
募集定員 40人
参加費 大人3,500円 小学生以下2,700円
申込・問合せ 2月7日(火)までに
 紫波町観光交流協会 ☎671-1755

※募集日時前に定員を超えた場合、お断りすることがありますので、早めにお申し込みください。



南部杜氏による仕込み風景



紫波酒造り体験

町内の材料だけで作るお酒の仕込みが1月から2月初旬にかけて始まります。仕込み体験を希望する人は、商工観光室 (☎672-2111 内線3243) まで

◆酒造四社

- 吾妻嶺酒造店
- 高橋酒造店(堀の井)
- 月の輪酒造店
- 廣田酒造店(廣喜)



杉だま

造り酒屋の店頭に見られる丸い杉の玉。これは「酒林(さかばやし)」、「杉だま」といって古くから造り酒屋の、看板とする習わしがありました。今年もおいしい新酒ができたことを知らせるために、杉の葉を束ねて杉玉を作り軒につるします。青々としていた杉だまは日が経つにつれてその色を変えてゆき、同時にお酒が熟成されていくことを知らせてくれます。

コース	
時間	内容
9:15	紫波中央駅出発
9:45~	紫波フルーツパークにてエッセイスト澤口たまみさんとティータイム
11:00~	紫波フルーツパーク体験工房でピザ作り 1人2枚のピザ作り、1枚は昼食に、もう1枚はお土産に。 紫波の食材を使った「シチュー」を召し上がっていただきます。
13:30~	赤沢産直でお買い物
14:30~	造り酒屋「月の輪」で酒蔵見学と試飲
15:40~	ラ・フランス温泉にて、冬まつり見学 丸亀菓子店の「くるみ大福」をお茶菓子に ラ・フランス温泉にて入浴
17:30	紫波中央駅解散